

車いすをリサイクル！

小諸市立小諸東中学校 1年 小野 悠希

ぼくは生まれつきの病気で車いすを使っています。一番最初に作った車いすは保育園年少の時点で、四歳になった冬頃のもので、それから体が大きくなるにつれ、車いすを何台か作り変えてきました。そのため保育園のころに作った車いすはもう小さすぎて乗ることができません。

でも、捨ててしまうにはもったいないし、まだ使えるのでどこかで使ってもらえる方法はないか考えました。そこで病院で使ってもらえないか聞いてみました。けれど「足りています」と言われてしまいました。

ゴミとして捨てるしかないかな、と思っていたそんな時、使わなくなった車いすを集めて、海外の必要な人たちに送っている人たちが日本にいることを知りました。ぼくが見つけた人たちは、日本で使われなくなった車いすを集めて、修理をして、海外旅行をする旅行者の人に手荷物としていっしょに車いすをもっていってもらい、発展途上国の病院や施設に、直接送り届ける活動を行っています。

なぜ発展途上国に車いすを送っているかという、車いすが高くて必要な人が買えないからです。また、学校や施設の車いすをそこで使うことができたとしても家には車いすがないので、家へ帰ると自由に行動することができません。そのため外に出られず、家のベッドの上でずっと過ごす人も多いようです。それを聞いてぼくは悲しくなりました。

実はぼくも一歳のころ自分でこげる車いすを見つけたのですが、作ることができませんでした。理由はまだ車いすを作れる年齢ではなかったからです。なので一番最初の車いすを作るまではベビーカーを使っていました。ベビーカーだと自分でこぐことができず一人で好きな所へ行けません。だからぼくは時々泣いていたようです。でも、自分の車いすができるからは自分の好きな所へ自分一人でいけるようになったので、とても喜んでいました。

このうれしさを車いすを必要としている発展途上国の人たちにも知ってほしいと思い、ぼくはこれからも小さくなった車いすを寄付しようと思います。一人でも多くの人たちに必要なものを届けたいし、そのような活動をしている人たちの活動を応援していきたいです。